採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

◎駒込病院

○大塚病院
○荏原病院
○墨東病院○多摩総合医療センター
○神経病院
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 駒込病院 (基幹施設)

東京都立アカデミー駒込放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科 高木 康伸 プログラム研修期間：3年

連携施設病院：大塚 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 神経 / 小児総合

鳥取大学医学部附属病院 / 筑波大学附属病院 / 横浜市立大学附属病院 / 国際医療福祉大学成田病院 /

埼玉医科大学国際医療センター

当プログラムは駒込病院（駒込）を基幹施設として、多摩総合医療センター（多摩総合）、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター（小児総合）、墨東病院、神経病院、筑波大学附属病院、鳥取大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、国際医療福祉大学成田病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。都内7病院で約4000床の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行なわれ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真からCT、MRI、血管造影そしてPET-CTやIVRも含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては駒込と多摩総合にて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行なう事が出来ます。以上のように当プログラムはいずれの施設も都内に位置し（連携している大学病院を除く）、相互間の距離も隔たっていない好環境で、病院間の連携体制も良好で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。

コースモデル (ローテート例)
(治療専攻)研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	放射線治療						放射線診断 (大塚病院)					
	治療専攻の専攻医のモデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専門医試験に必要な経験症例数を満たすために、診断部門もローテーションに組み込みます。											
2年次	放射線治療						放射線診断					
	3年間の間に基幹施設（放射線科総合修練機関）である駒込病院にて12か月間の研修が必須となっています。											
3年次	小児総合			放射線治療								
	小児総合医療センターでの研修を必須としています。											
(診断専攻)	-----											
1年次	放射線診断						放射線治療					
	診断専攻の専攻医のモデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専門医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。											
2年次	放射線診断 (多摩総合医療センター)						放射線診断 (大塚病院)					
	3年間の間に基幹施設（放射線科総合修練機関）である駒込病院にて12か月間の研修が必須となっています。											
3年次	小児総合			放射線診断								
	研修後半に小児総合医療センターでの研修を必須としています。											

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度
放射線治療

プログラム責任者：診療放射線科 室伏 景子 プログラム研修期間：3～5年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャリティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです。駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その2年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期

に基本領域とサブスペシャリティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、幅広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

**新専門医制度
放射線診断**

プログラム責任者：放射線診療科診断部 高木 康伸   プログラム研修期間：3年

放射線科専門医は後期研修4年目で受験し、その後2年の研修を経て後期研修6年目に診断専門医を受験します。東京都医師アカデミーでは3年の後期研修を行っており、その後さらに3年の研修を行い、放射線診断専門医の取得を目標とします。

CT, MRI, RI (PET 含む) の検査指示から撮影の立ち合い、確認を行い読影までの全体を研修します。IVR (画像下治療) についても TACE などの血管造影や CT ガイド下の穿刺手技を単独で行えることを目標として研修を行います。また、担当領域を決めて院内のキャンサーボードにも参加します。

院内、科内のジュニアレジデントやシニアレジデントの指導も担当して、後輩の育成を通して自身の成長にもつながってもらいます。

● **大塚病院 (連携施設)**

指導医責任者：放射線科 山田 佳菜

連携をしている基幹施設病院：駒込

当院は、総合病院としての基盤の上に最重点医療として、総合周産期母子医療・小児医療をかかげ、リウマチ・膠原病系難病診療、心身障害児・高齢者、がん医療などの幅広い分野を、開設当初から地域医療連携を念頭に推進しています。当科は日本医学放射線学会、日本核医学会からそれぞれ修練機関病院としての認定を受けており、原則3年で専門研修医を受け入れます。年間の報告書作成件数は約15000件で、専門医受験資格取得には十分な症例数を確保していますが、不足分は基幹施設病院や他の連携施設病院へのローテーション時に補填されます。当科は駒込病院を基幹施設病院とする放射線科専門研修プログラムに参加しており、任期3年の間に他施設を定期的にローテーションすることで、幅広い放射線科的知識、技術を体得し専門医試験、診断あるいは治療専門医資格の取得を目標としています。研修は原則、1対1のマンツーマン方式で、適宜当科で作成しているティーチングファイル等を用いてのディスカッションを追加します。また放射線治療も行われており、がん治療における放射線治療の役割などを研修することができます。以下に、当院の専門研修医のローテート例を掲げますが、希望により研修期間や研修施設は調整が可能です。一例として参考にさせていただきたいと思います。

**研修コース
モデル**

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	大塚病院						診断 (駒込病院)						
新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。													
2年次	大塚病院						治療 (駒込病院)			診断 (駒込病院)			
新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。													
3年次	大塚病院						小児	検診センター	大塚病院				
小児 = 小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、検診センター = がん検診センターで消化管造影などを研修 (いずれも期間は調整可能)													

● 荏原病院（連携施設）

指導医責任者：放射線科 岡田 洋一

連携をしている基幹施設病院：駒込

放射線診断専門医の取得を目標とし、日本医学放射線学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。General radiologist 育成を目的とし、さらに subspecialty を専攻して臨床研究、学会発表、論文作成を行います。診療においては読影のみならず、画像診断管理についても習得し画像診断を通じて日常診療、救急診療に積極的に介入します。核医学、放射線治療の基礎についても習得します。1年次：CT、MR、各種造影検査の原理と撮像プロトコールの特徴を理解し、基本的な所見の読み方、鑑別診断、さらに最終診断への考え方を学びます。血管造影、IVR 主手技の基本を習得する。院内各科および院外におけるカンファランスに参加し発表します。subspecialty と研究テーマを選択し、臨床研究、学会発表の方法を学び、実際に学会発表を行います。2年次は放射線腫瘍学、放射線治療学を研修します。2年次後半からは、より専門性の高い診断学、超音波医学、核医学、放射線腫瘍学を研修し、subspecialty も含めた専門的な分野を習得します。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	荏原病院											
	1年次は荏原病院にて撮像法の原理や画像診断（読影）、造影検査手技等を研修する。											
2年次	治療（駒込病院）						診断（駒込病院）					
	2年次は基幹施設である駒込病院にて、前半は治療・後半は診断について研修する。											
3年次	大塚病院						小児	がん検診	荏原病院			
	3年次は荏原病院のほか、小児総合医療センターやがん検診センターでより専門性の高い研修を行う。											

● 墨東病院（連携施設）

指導医責任者：放射線科 高橋 正道

連携をしている基幹施設病院：駒込

（東京医師アカデミー ホームページ 駒込病院 放射線科より 一部改変）

当プログラムは駒込病院を基幹施設として、多摩総合医療センター、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、神経病院、墨東病院を連携施設とする、放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は7病院で4000床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真からCT、MRI、血管造影そしてPET-CTやIVRも含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては、駒込と多摩総合にて、豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行う事が出来ます。以上のように当プログラムは、いずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、なおかつ満編なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムです。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	墨東病院						診断（駒込病院）					
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。											
2年次	墨東病院						治療（駒込病院）					
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。											
3年次	墨東病院				小児	神経病院	墨東病院					
	説明：小児＝小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、神経病院＝神経病院で神経領域の画像診断などを研修（いずれも期間は調整可能）											

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度
放射線治療

プログラム責任者：放射線科（治療） 待鳥 裕美子 プログラム研修期間：3～5年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャリティ領域「放射線治療」を研修し、放射線治療専門医を養成するプログラムです。がん・感染症センター都立駒込病院を基幹施設とする、「がん・感染症センター都立駒込病院施設群 東京医師アカデミー 放射線科専門研修プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その2年目から連動研修として当プログラムでの放射線治療領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャリティ領域の専門性を習得できます。

研修内容については、駒込病院と墨東病院で豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、幅広い領域の腫瘍について、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで多数の症例を経験でき、満遍なくバランスの取れた研修を行なう事が出来ます。

新専門医制度
放射線診断

プログラム責任者：放射線科（診断） 高橋 正道 プログラム研修期間：3～5年

当プログラムは基本領域「放射線科」のサブスペシャリティ領域「放射線診断」を研修し、放射線診断専門医を養成するプログラムです。駒込病院を基幹施設とする、「東京都立アカデミー駒込放射線科プログラム」で放射線科基本領域研修を行い、その2年目から連動研修として当プログラムでの放射線診断領域研修を開始することができ、早期に基本領域とサブスペシャリティ領域の専門性を習得できます。

● 多摩総合医療センター（連携施設）

指導医責任者：放射線科 荒木 潤子
連携をしている基幹施設病院：駒込

多摩総合医療センター放射線科は、駒込病院の連携病院として、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、墨東病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。全6病院で約3800床の病床を有し、病院毎の特色を生かしたローテーションプログラムにより幅広い研修を行うことができます。

多摩総合医療センターは、東京ERを有し多種多彩な救急症例を毎日のように経験可能であると共に、がん、周産期、難病、感染症等の画像診断、それらに合併する救急症例、IVR症例も、豊富な施設です。最近では研修できる施設が減少している超音波検査も、スクリーニング症例の他、救急や超音波ガイド下生検等も研修します。単純X線写真、CT、MRI、核医学、IVR等を併せ、細分化された臨床各科の間を繋ぎ、技師や看護師等他職種とも協力しあい、チーム医療の一員として能力を発揮できる、幅広い視野を持ったGeneralRadiologistの育成を目指しています。

放射線治療に関しても、多摩総合医療センターと駒込病院にて経験豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行うことができます。

指導医と共にCPC、画像カンファレンスや各種カンファレンスに参加し、放射線科医の立場から最善の治療を目指してdiscussionが出来るスキルを身に着けます。年2回の学会・研究会発表、研修中の論文作成を推奨します。

東京医師アカデミーという比較的コンパクトな立地の中で、利便性も良く、尚且つバランスの取れた幅広い研修が可能と考えます。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	放射線診断（多摩総合）						放射線治療（多摩総合）			放射線診断（多摩総合）		
2年次	治療（駒込病院）		診断（駒込病院）		診断（大塚病院）			診断（荏原病院）				
3年次	診断（小児総合）			放射線診断（多摩総合）								

3年目には、小児総合などのローテートも可能です。

診断希望の専攻医モデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専攻医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度
放射線治療

プログラム責任者：診療放射線科 泉 佐知子 プログラム研修期間：2年以上、5年以内

近年のがん治療では放射線治療は大きな役割を担い、様々ながん治療関連の施設基準で放射線治療の専門医の存在が必須となっています。しかし、放射線治療専門医は2025年4月時点で全国で1400人余りと2年前と比べてむしろ減少している中で、より高度な放射線治療が必要となっており、専門医の需要はきわめて多いです。放射線治療専門医の資格取得には、2年間の研修期間で、総数200例の直接の治療計画と、治療専門医試験の合格が求められます。当院では年間700例以上の新患者があり、100例以上のIMRT、定位照射などの高精度治療、20例以上の密封小線源治療を行っており、単施設でも十分な症例数を経験することが可能です。特に手技の熟練が必要な密封小線源治療は、様々な形状のアプリケータや、組織内併用照射など、多彩なバリエーションを有しており、当院での研修により高い臨床技能を修得することが可能です。

新専門医制度
放射線診断

プログラム責任者：放射線科 荒木 潤子 プログラム研修期間：3～5年

本コースは放射線診断医制度に則った研修の提供を目的とします。多摩総合医療センターでは、悪性腫瘍や周産期、救急等の多岐に渡る症例の画像診断やIVRを施行しています。各分野の専門的知識と各科横断的な読影能力を取得し、かつ救急を含めた総合的なIVR技術を取得できます。年間CT、MRI、核医学等合わせ5万件以上の画像検査に加え、マンモグラフィ、単純X線写真の検査、読影を行っています。腹部や甲状腺・乳腺超音波検査も検査科と協力して担当しており、IVRも年間300件強を施行しています。令和7年度よりPET-CTも始めました。日々の読影、臨床各科カンファレンスやdiscussion、CPC、画像カンファレンスでの症例提示、種々のIVR、論文作成等を通して、各科を繋ぐ広い視野を持ち、放射線診断専門医取得に必要な能力、技術を総合的に身に付けられます。